

関係機関長 様

兵庫県病害虫防除所長

病害虫発生予察特殊報 第 3 号を下記のとおり発表しましたので、送付します。

令和 4 年度病害虫発生予察特殊報 第 3 号

- 1 病害虫名 クロテンコナカイガラムシ *Phenacoccus solenopsis* Tinsley
- 2 発生作物 トマト、ナス、オクラ、キク
- 3 発生地域 兵庫県東部

4 発生経過

令和 4 年 8 月下旬、兵庫県東部の施設栽培のトマト、ナス、オクラにコナカイガラムシ類の発生が認められた(写真 1)。また、同地域にて栽培されていた露地キクにも類似したコナカイガラムシ類が確認された。農林水産省神戸植物防疫所に同定を依頼したところ、いずれも本県では未確認のクロテンコナカイガラムシ (*Phenacoccus solenopsis* Tinsley) であることが判明した。

5 他府県での発生状況

国内では、平成 21 年に沖縄県(スイセンジナ、ヒマワリ)で発生が初めて確認され、その後、佐賀県(ナス)、福岡県(ミニトマト、ナス)、愛知県(食用トレニア、食用キンギョソウ)、山口県(トマト)、高知県(ナス)、鹿児島県(ミニトマト)、大阪府(ナス)、奈良県(ホウレンソウ)、長崎県(ナス)、京都府(トマト)、愛媛県(ナス)、岡山県(ナス)で発生が確認されている。

6 形態および生態

(1) 形態

雌成虫は翅^{はね}がなく、体型は楕円形。体長は通常 3～4mm 程度で、大きい個体は 5mm を超える。背面に白色のロウ物質を分泌するため、全体としては白く見えるが、背面の前方と後方にそれぞれ 1 対の明瞭な黒斑(縦線)が見られる(写真 2)。

(2) 生態

繁殖は、交尾後産卵する有性生殖と雌成虫が交尾しない単為生殖の両方が知られている。卵の多くは雌成虫の体内でふ化する。1 齢幼虫は歩行により分散する。雄では 2 齢幼虫の終わりにまゆを作り、前蛹、蛹を経て羽化し、1 対の翅を持つ成虫となる。雌は 2 齢、3 齢幼虫を経

て成虫となる。成虫は、ワタ状のロウ物質の卵のう内に 350 個程度産卵する。1 世代の卵から成虫までに要する期間は 70 日程度である。

7 被害

葉、葉柄、茎、花芽および果実に寄生する。吸汁することで葉が萎縮し、衰弱するほか、分泌した甘露（糖分を多く含む排泄物）による果実の汚れやすさ症状を引き起こす（写真3）。海外ではトマト、オクラ、ナス等、53科154種の植物に寄生することが知られている。

8 防除対策

- (1) 寄主植物が広範囲にわたり、スベリヒユなどの雑草にも寄生する。寄生された植物やその残渣を放置すると、近隣の作物や雑草に本種が移動し、繁殖する可能性がある（写真4）。周辺への発生拡大を防ぐため、本種の発生を確認した場合は速やかに寄生部位を除去し、圃場外に持ち出して土中に埋める、袋に密閉した上で処分するなど、適切に処理する。
- (2) 薬剤による防除については、発生を確認したら、速やかに散布を行う。成虫はロウ物質で覆われ、生長点や花蕾、果実の隙間など狭い部位に寄生するため、防除効果を高めるために十分量の薬剤を虫体に直接かけるように散布する。なお、ナスのコナカイガラムシ類に対しては、アセタミプリド水溶剤（商品名：モスピラン顆粒水溶剤）の登録がある。

9 問い合わせ先

兵庫県病害虫防除所（加西市別府町南ノ岡甲 1533）

電話番号 : 0790-47-1222

ファクシミリ : 0790-47-1821



写真1 オクラの生長点に寄生する
クロテンコナカイガラムシ



写真2 クロテンコナカイガラムシ雌成虫



写真3 キクに寄生するクロテンコナカイ
ガラムシと生長点の萎縮症状



写真4 トマト残渣に残る
クロテンコナカイガラムシ

*この情報は、兵庫県病害虫防除所ホームページ
(<https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/>) に掲載しています。